



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

「検体検査の精度確保に基づく医療法の一部改正」について

【当法人評議員】
公立昭和病院

櫻井 勉 [臨床検査技師]

先生方はすでにご存じのことと思いますが、平成30年12月1日に医療法の一部を改正する法律が施行されることになりました。この改正はゲノム医療が広まる中で遺伝子・染色体検査という人間の尊厳に関わる検査に関して精度保証が無かったことが本流にあります、「法」という枠の中では「検体検査」という言葉になっています。このため、この紙面を少し借りて会員の皆さんに理解して頂ければと思い書かせていただきます。

精度保証とは「患者から取り出した(採取した)検体を検査した時に一定の正確性をもった結果が得られるように維持すること」と考えられます。検査の結果が正しいかどうかをチェックすることを精度管理といい、病院検査室や検査センターでは毎日標準物質を測定し正しく検査できているかを確認しています。また今回の改正で精度の確保にかかわる責任者を置かなければなりません。この責任者は医師(歯科医師)または臨床検査技師と規定されています。検査センター以外では特別な要件は定められていないため、臨床検査技師のいる病院であれば臨床検査技師が選任されるでしょうし、臨床検査技師のいない病院、医院、クリニックでは医師が兼務すると考えられます。

今回の法改正は臨床検査技師がいない病院、医院、クリニックであっても、検査を1項目だけでも実施している場合どのように影響するか説明させていただきます。まず自施設で行っている検査項目ごとに、それぞれ検体採取から結果報告までどのような流れになっているのか「標準作業書(SOP)」を作る必要があります。検査機器の保守管理標準作業書は添付文書、取扱説明書で代用できますが、「定義」「臨床的意義」「測定方法および測定原理」「検査手順」「基準範囲および判定基準」を記載した一連の用紙を作る必要があります。また、これとは別に「作業日誌」として検査機器保守点検を行った日時、作業者名、業者名や検査測定回数、検査エラーなどが生じた場合は内容や件数を記載するものも必要となります。作業日誌は検査を実施した都度または「週～月」単位が望ましいとされています。「台帳」として試薬購入日時や有効期限、在庫数などを記載したものが必要となります。

精度管理に関しては努力義務となっているのですがすぐに実施していく必要は生じませんが、今後測定する必要性が生じる可能性が高いです。検査を委託(外注)している施設においても院内で血清分離などを行っている場合、手順書を作っておいたほうが良いでしょう。

いずれにしても今回の改正により何かしらの検体検査を行っている場合、SOPだけは作成するようにしてください。臨床検査技師がいない施設にお勤めでしたら作業手順の統一化が図れますのでスタッフ全員で協力して作成することをお勧めします。また外部に検査委託している施設の場合でも委託先の精度管理報告だけは受けておくようにしてください。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 自己管理行動の強化要因として正しいのはどれか、1つ選べ。(答えは7ページにあります。)

1. ヘルスビリーフ
2. 治療環境
3. HbA1c
4. 自己効力感
5. 糖尿病への思い



報告

平成30年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

日時:平成30年7月1日(日)

場所:北里大学

第15回 西東京教育看護研修会

[当法人会員] 第15回西東京教育看護研修会総合司会

小平中央リハビリテーション病院 下地 亜希子 [看護師]



大橋先生



中山先生



伊藤先生

2018年7月1日、西東京糖尿病療養指導プログラムが北里大学で開催されました。盛夏の中、第15回西東京教育看護研修会では285名の参加者・講師の先生方と、外気温にも勝る熱論が交わされました。

今年度は、“糖尿病患者とエンドオブライフ”をメインテーマとした会でした。午前の部では“2人に1人が「がん」になる時代の糖尿病看護を考える”と題し、もはや定評と

なっている国立がん研究センター中央病院総合内科の大橋健先生、荒天の中、山口から駆けつけてくださった糖尿病サポートケアオフィス代表の中山法子先生よりご講演を賜りました。糖尿病患者の死因1位はがんです。大橋先生の仰っていた「がん患者は毎日がシックデイ」は、今後増々直面していく糖尿病ケアの1つに違いありません。また、中山先生からは患者を中心とした生活文化に則すための看護師の5つの視座・対話の重要性をご教示いただきました。まだまだ未熟な私は、患者に寄り添いたいとケアを提供する日々で、時として看護というよりも患者の言いなりになってしまう瞬間を経験してきたように感じます。しかし、共に関わりを選択できるような関係性を構築し、心的な距離が離れてしまわないような技術・・・というよりも人間性の成熟を中山先生からビシビシと感じました。午後の部では、“糖尿病エンパワメントとコーチング”で国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチ/オフィスDMe代表でご自身が1型糖尿病でもある伊藤三恵先生にご講義いただきました。プロの技が盛りだくさんの演習を笑顔あふれる時間で学びました。更に後半は“忘れられない患者さん”の2事例を涙と笑いと共に会場全体で共有し、充実感いっぱいの研修となりました。



- 😊 毎年参加しています。今年はフォーカスのしぼった、充実した内容で学びが多かったです。
- 😊 非常に素晴らしい内容だったので、若いナースや学生にも聞いてほしいと思った。
- 😊 事例を踏まえ、講師の経験したこと、学んだことを聞くことができ、今後に生かせる楽しい内容でした。
- 😊 糖尿病はコントロールできるという言葉は印象に残りました。生き方に寄り添い、意向を確認しサポートしていく必要性を感じました。
- 😊 糖尿病患者さんとがんの関連をそれほど意識することが普段は少ないので、とても学びになりました。終末期での看護や、看護師として相手と向き合う事の大切さを再確認することができたと思います。
- 😊 コーチングの研修内容がとても面白く、興味深かったです。本日の研修を明日からの糖尿病療養指導に活かしたいと思います。
- 😊 患者とのかかわりが手薄になっていると改めて考えさせられました。目標を持ちながらできることを少しずつ進めていこうと思います。
- 😊 コーチング、エンドオブライフケアは仕事の一環としてうまく取り入れていきたいと思いました。

報告

平成30年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

日時:平成30年7月1日(日)

場所:北里大学

第15回 西東京病態栄養研修会

【当法人会員】第15回西東京病態栄養研修会総合司会

緑風荘病院 鈴木 順子【管理栄養士】



調先生



中根先生



丸山先生

より、「平成30年度医療と介護同時改定～概要と中身をひも解く～」と題して、それぞれの先生方にご講演いただきました。午後の講演3では、武蔵野赤十字病院 腫瘍内科部長 中根実先生より、「がん専門医からみる『糖尿病とがん』」、講演4では、田無病院 院長 丸山道生先生より、「外科領域からみる糖尿病と血糖コントロール」と題して、それぞれの先生方にご講演いただきました。

2008年より開始となった特定健診・特定保健指導は当院でも開始当初から行っておりますが、管理栄養士としてのやるべきことなどが再確認出来ました。また、管理栄養士として最も大きな関わりの2018年4月に行われた診療報酬・介護報酬同時改定について、変更点や新たな点数について明確となり、今後の業務に生かせる内容でした。その他、がんや外科疾患についての問題点が明らかとなり、そのために必要な栄養管理について学ぶことができました。

多岐にわたり様々な内容でしたが、管理栄養士としての必要な知識習得ができ、有意義な研修会となりました。



😊 がん、外科領域について普段触れない事なので、難しかったです、大変勉強になりました。

😊 丸山先生の海外の病院の食事はとても楽しく拝見しました。

😊 がん、手術により血糖値が大きく変動することが分かりました。ドクターの方々の専門性に頭が下がります。

😊 どの講義も大変勉強になりました。特に糖尿病とがんを併発している患者様と関わる事が多く、中根先生の講義は大変分かりやすく、管理栄養士としてどのように対応すべきかヒントがたくさんありました。

😊 医療介護同時改定のポイントはわかりやすくまた、どのようなアクションをするべきか背中を押していただきました。がんの治療系、高血糖について知ることができました。難しい内容でしたが処方箋を読み解く力をつけたいと思いました。

😊 1つの講義時間が十分に確保されているため内容が具体的で、また先生が実践でご活躍の先生なため、非常に分かりやすかった。今回は他分野にわたる内容であり、普段関わらない分野においても学べ、刺激があった。

😊 特定健診・診療報酬の改正点がよく分かりました。今後の指導に使えるフレーズもあり助かりました。

報告

平成30年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

日時:平成30年7月1日(日)

場所:北里大学

第15回 西東京薬剤研修会

[当法人会員] 第15回西東京薬剤研修会総合司会

青梅市立総合病院 指田 麻未 [薬剤師]

薬剤研修会では午前の部に東京都済生会中央病院 香月先生より経口薬、インスリン製剤について日本や海外で行われた臨床試験の結果を引用しながら最新の知識をわかりやすく説明していただきました。午前の部2では北里研究所病院 山田先生よりインスリン導入の際は1日1回持効溶解型インスリンアナログを用いたBOT療法からの導入が主流であり、その後1日頻回注射によるbasal-bolus療法へ移行していくことが多いと具体的な導入方法について紹介していただきました。また、近年導入患者が増加しているCSII、SAPについてはそれぞれの仕組みや今後発売される予定の機器について解説していただきました。

また午後の部ではSMBG・CSII・SAP・インスリン・GLP-1RAについて、参加者をグループに分けグループごとにデモ機を用いて手技説明を行いました。SMBGは機種ごとの特徴や測定の方法など、実際に血糖測定を行うことで理解することができました。CSII・SAPについては実物に触れたことがなかった参加者も手に取って見ることができる良い機会になったと思います。インスリン製剤、GLP-1RA受容体作動薬に関しては指導経験のないデバ



SMBGやインスリンなど実際にさわって測定してみたり、紙で学ぶだけじゃわからない部分を学びました。



わかりやすい講義で、最新の情報を学べ良かったです。実技も助かりました。

スについても特徴、使用方法を学ぶことができました。実際に手技を体験し、理解を深めることで参加した方々にとって今後の患者指導に生かせる内容になったと思います。



第3回 西東京臨床検査研修会

[当法人評議員] 第3回西東京臨床検査研修会総合司会

公立昭和病院 櫻井 勉 [臨床検査技師]



7月1日(日)酷暑の中、北里大学薬学部白金キャンパスにて第3回西東京臨床検査研修会が開催されました。糖尿病患者さんは高脂血症になりやすく結果として動脈硬化を起し心筋梗塞や脳血管疾患を併発するリスクが高いため、今年の研修会は「心・血管系」にスポットを当て療養指導の役に立つように「総論」「検査」「治療・予防」という流れでプログラムを考えました。講演は、吉祥寺藤田クリニックの藤田進彦先生に「糖尿病と心血管合併症」の総論を講演いただいた後、心疾患関連検査として生理機能検査と心筋マーカー検査についてそれぞれ講演して頂きました。生理機能検査は杏林大学

臨床検査部の佐藤先生が心臓の血管走行を考えた心電図波形の変化やABI、PWV検査の意義、見方を、心筋マーカーの見方として八王子医療センター中央検査部の浅海先生に心筋梗塞発症からの時間別でどのマーカーを注意して見ていくべきかななどを講演して頂きました。薬物治療薬については薬剤の種類が多く時間が短い中で薬理から使用方法のエビデンスまでを公立昭和病院薬剤部の嶋崎先生に講演して頂きました。心疾患有病者の運動について武蔵野赤十字病院リハビリテーション科理学療法士の藤本



今回のテーマはDMと心、血管疾患で、日常の業務に直結する良いテーマだと思います。これからの仕事に役に立ちました。



小池先生のお話は楽しく、病院に帰り患者様にすすめとなりました。

先生に、食事療法について虎の門病院栄養部の土井先生に講演して頂きました。どうしても臨床検査系の研修会はこのような座学になってしまうので今回は他職種でも指導できる簡単な運動について高村内科の健康運動指導士の小池先生に実技を入れて頂きとても楽しく学ぶことができました。

報告

平成30年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

日時:平成30年7月1日(日)
場所:北里大学

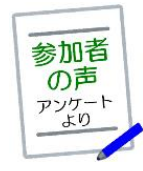
第3回 西東京運動療法研修会

[当法人会員] 第3回西東京運動療法研修会総合司会
立川相互病院 長谷部 翼 [理学療法士]

第3回西東京運動療法研修会は、約60名の方々が参加されました。午前の部は3演題とパネルディスカッション、午後の部は4演題が行われました。午前の部では、植木彬夫先生は高齢者糖尿病の身体的特徴、糖代謝への影響など医学的視点からみた運動療法の意義についてご講演されました。石川県糖尿病療養指導士研究会運営委員長の片田圭一先生には「高齢者のADL、IADLと運動療法とは」として、日常生活活動における運動療法への応用を中心に提唱して頂きました。天川淑宏先生には「地域における糖尿病を持つ高齢者の重症化予防と運動療法」として、保健指導での重症化予防の取り組みを中心に講演して頂きました。パネルディスカッションでは、高齢者糖尿病の運動療法の在り方について、シームレスな予防・医療・介護の実現に向けた総合討論を午前の部の3演者と参加者で行いました。午後の部は高齢者が抱える課題と運動療法との接点について、小池日登美先生より健康長寿、田中耕史先生からはフレイル、永田昌宏先生は認知症予防、木村壮介先生からは介護予防と在宅の面から、疫学的視点と臨床経験を踏まえてそれぞれ講演をして頂きました。今後、糖尿病をもつ高齢者の増加においては、合併症の重症化予防とともに社会保障費や介護負担、健康格差の増加などに対する対策は重要課題で



あります。その中で運動療法における役割とその療養指導は、それらを解決する糸口となり、1次・2次・3次予防それぞれが共助、公助していく重要性を再認識できた研修会だったと感じております。



- ☺ 講義の内容も興味深く、症例などの紹介もあり、わかりやすく聞くことができた。これから自分の資格を生かし、何をすべきなのかヒントを得ることができた。
- ☺ 在宅でも運動という言葉だけでは実践しにくい部分も多いため、声掛けや取り組み方など大変勉強になりました。

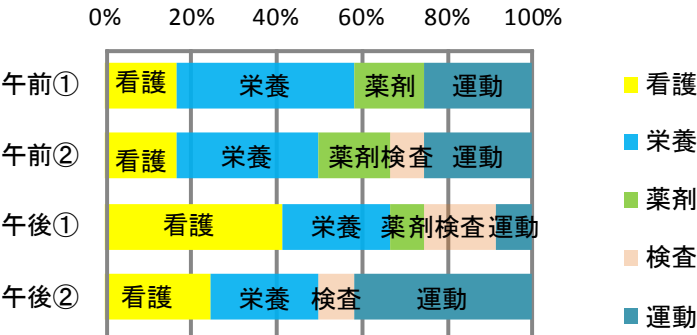
フリーコース(5分科会自由受講)

今年度は20名の方がフリーコースに参加されました。

<参加者職種内訳>

職種	人数
(准・正)看護師	5
(管理)栄養士	4
薬剤師	3
理学療法士	2
保健師	2
その他	3
計	20

<参加した研修会> ※回答者数:12名



- ☺ プログラムの内容を見て、当日の受講を決められるので良いと思います。
- ☺ 非常に良いシステムだと思います。ありがとうございました。



報告

薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会

日時:平成30年6月1日(金)

場所:国分寺労政会館

[当法人理事]

杏林大学医学部付属病院

小林 庸子 [薬剤師]



近藤先生

平成30年6月1日、国分寺労政会館にて「薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会～糖尿病発症予防のために～」が開催されました。妊娠糖尿病の方は、出産後、血糖値は正常値となり「糖尿病」ではなくなります。「目の前に現れた子供を連れてきた方の10人に1人は妊娠糖尿病でした。その中の半数は、将来、2型糖尿病です。偶然現れた薬局で…たまたま受診した病院で…薬学教育で…糖尿病発症予防、あなたにできることは何か？学校で習わなかった分野を一緒に勉強しましょう」のチラシで、26名が参加されました。

第一部は、杏林大学医学部(糖尿病・内分泌・代謝内科)医師の近藤琢磨先生より、「基礎から学ぶ、妊娠時の糖代謝異常」をご講演いただきました。妊娠糖尿病の診断基準、治療方針、使用するインスリンの種類(旧FDA分類)など、とてもわかりやすいお話でした。第二部は、近藤先生と会の発起人による「シンポジウム」でした。

「薬剤師による～」ですが、薬剤師の他に看護師、助産師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士の方々も参加され、「何かやりたい」が伝わるご意見・ご提案を出してくださいました。

シンポジウムが盛り上がりかけた段階で終了時間となりましたが、次回も是非参加したいというご意見を多数いただきました。今後も「何ができる？」で、この会を継続していきたいと思います。



報告

西東京CSII普及啓発プロジェクト 第14回研修会

日時:平成30年7月10日(火)

場所:立川相互病院横 講堂

[当法人理事]

杏林大学／近藤医院

近藤 琢磨 [医師]

平成30年7月10日、立川相互病院内講堂において開催しました。当日参加9名を含め計46名の方にご参加いただき、引き続きこの領域への関心の高さが伺える盛況ぶりでした。

今回は「低血糖のリスク管理」というテーマで、まずは日本メドトロニック社の方に昨今国内でも使用可能となったミニメド640Gシステム製品の特徴と使用方法について解説を受けました。特に、新たに搭載されたスマートガードは、センサグルコース値が事前に設定した下限値に近づくと特定のアルゴリズムによって基礎インスリン注入を一時停止し、センサグルコース値が回復すると自動的に再開する機能であり、CSII施行中の低血糖リスクを軽減することが既に報告されています。1型糖尿病患者さんの心強いツールがまた登場しました。続いて、八王子糖尿病内科クリニックの小池真由美先生より、ミニメド600シリーズのインスリンポンプへ血糖測定結果をワイヤレス送信でき、ボーラスウィザード使用時および較正時の血糖値入力の手間がなくなるコントラネクトLink2.4血糖自己測定器に関して解説していただきました。便利だけでなく、補正血糖の入力ミスが防げるなど安全面でも向上することが期待されます。最後に医療従事者である1型糖尿病患者のお二人から、低血糖のリスク管理について、実践的な側面から豊富な経験を交えて詳しくご説明いただきました。低血糖のリスク管理について、機器の特徴や実際の方法を学ぶことができ、今回も大変有意義な会となりました。



小池先生





第6回日本糖尿病療養指導学術集会

平成30年7月28日(土)～29日(日)

国立京都国際会館

〔当法人会員〕

高村内科クリニック

名嘉真 香小里〔看護師〕

猛暑の京都を想像していましたが、思いがけず台風に遭遇してしまったため、熱中症の心配をすることもなく学ぶことができました。日本糖尿病療養指導学術集会は第6回目を迎え、会長が初めて医師からメディカルスタッフへと受け継がれ、その初回会長責には中村慶子先生が担うことになりました。数々の糖尿病関連学会の中で、この学会はまさにCDEの活動やネットワークの築ける学会であり、その特徴は直接参加型のグループディスカッションです。CDE同志がお互いの活動を通じた経験や、悩みを直接話し合うことができ、仲間づくりのできる学会です。今回のテーマは「ひとりとチームの経験を力に、ともに歩む」です。CDEそれぞれの学会での学びの目的は様々であるが必ず力となって蓄えていける学会であったと思います。1日目イブニングセミナーでは各地で活躍するCDEの先駆者たちの貴重な体験を聞く事ができました。当法人の理事ですずき糖尿病内科クリニックの看護師の和田幹子先生からはCDEの歴史とともに当法人の立ち上げていった様子をうかがいました。私は看護職であるので、特に印象的であったことは和田先生がさらに今後企業の予防的活動へ目を向けて、努力しているお話を聞き、力を頂きました。2日目のスモールディスカッションは「インスリンポンプ」に参加しました。5つのグループには経験豊富なファシリテーターが参加者一人一人のニーズを探り、きめ細やかにグループでの話し合いを進めてくださいました。実際にポンプを使用しているファシリテーターからは貴重なお話も聞く事ができ勉強になりました。糖尿病療養を支えるメディカルスタッフには1型糖尿病を持ちながら自分の経験を活かしつつ素晴らしい療養指導を行っているスタッフがたくさんいる事にも驚きと、羨望を感じた2日間でした。

日本糖尿病協会療養指導士賞“JADEC Award for Excellent Diabetes Educator”に当会員 天川淑宏氏
(東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科 理学療法士)受賞

〔当法人業務執行理事〕

東京医科大学

植木 彬夫〔医師〕

日本糖尿病協会は糖尿病療養指導の発展に著明な貢献があったコメディカルスタッフを職種別に表彰する日本糖尿病療養指導士賞を設け、日本糖尿病療養指導学術集会において発表しています。その栄えある第一回指導士賞に当会員の天川淑宏氏が授与しました。天川氏は12年前から当法人の重要な活動である「西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー」を開催し数多くの医療施設で運動療法が行われることに寄与してきました。また理学療法士として3次予防のリハビリテーションのみならず、糖尿病患者への2次予防への運動療法(リ・コンディショニング)に力を注ぎ、糖尿病重症化予防への取り組みに尽力されてきました。高齢者が増加している糖尿病患者における運動は、個別差も大きく病態を理解し、且つ身体機能の特性を考慮した運動指導が欠かせない現状に対し、理学療法士が同氏のように積極的に2次予防へ取り組むことへの期待も含めた受賞であります。天川氏は、受賞の喜びとともに「運動療法の必要性を求められ、その実践指導の場を与えて頂いた医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科に心より感謝をします。多くの医療機関でも診療報酬有無を問わずに運動療法に取り組める工夫をして頂きたい、それが、私の賞を頂いた証です」と語っていました。また糖尿病治療における食事と運動は基本であり、薬物療法やインスリン治療の有無にかかわらず継続されるものです。特に患者さんにとって運動療法の継続は、食事や服薬より難しいことです。運動は、動かしたくなる心を導く、そんな療養指導が欠かせません。天川氏は、それが糖尿病療養指導の基本ではないでしょうか、と授与されたAwardを見ながら語っていました。

読んで
単位を
獲得しよう

答え 3 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

糖尿病の治療は、基本的に日々患者が実行します。食事療法や運動療法をはじめとする各種治療行動をセルフケア行動(自己管理行動)といい、セルフケアの実行度を高めて行くことが療養指導士の大きな課題です。

セルフケア行動(食事療法、運動療法、服薬、インスリン自己注射、SMBG、フットケア)は外的要因(治療環境、合併症の有無など)や、内的(心理的)要因(ヘルスビリーフ、自己効力感、糖尿病への思いなど)とともに、その結果であるHbA1c、血糖値、身体症状、QOL、医療者の評価などの強化要因が影響を与えています。

研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 主催事業
 ☒ 共催・後援事業
 ☐ その他

☒ 第2回 チームで学ぶ糖尿病ワークショップ

☒ 申込必要

開催日：平成30年10月14日（日）12:00～16:00

場 所：立川相互病院横 薬局棟2階・講堂 JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分

参加費：500円 申 込：FAX: 03-4411-7259 (10/5締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：5単位

詳細資料の
同封あり
☒ 第11回 ブルーライトアップ - スカイトワー西東京 -

☒ 申込必要

開催日：平成30年11月10日（土）15:45～18:00（開場：15:15）

場 所：スカイトワー西東京 タワープラザ地下1階会議室 ※雨天決行
（西武線「花小金井駅」北口下車 徒歩20分 または西武線「田無駅」北口よりバス有）

申 込：FAX: 042-322-7478

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL: 042-322-7468

参加費
無料詳細資料の
同封あり

14:45～ 西東京糖尿病療養指導士による「糖尿病クイズラリー」にも参加可能です。

☒ 第22回 西東京糖尿病心理と医療研究会

☒ 申込必要

開催日：平成30年11月17日（土）15:30～18:50

場 所：国上市商業協同組合 さくらホール（JR中央線「国立駅」下車 徒歩3分）

参加費：500円 申 込：FAX: 042-400-5952 (11/12締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：5単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

詳細資料の
同封あり
☒ 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第15回研修会

☒ 申込必要

演 題：『CSII/FGS/CGMの現状』

開催日：平成30年11月20日（火）19:20～21:00

場 所：立川相互病院横 薬局棟2階・講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申 込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（11/8締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

詳細資料の
同封あり
☒ 第2回 薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会

☒ 申込必要

テーマ：『糖尿病発症予防のために』

開催日：平成30年11月21日（水）19:30～21:00

場 所：国分寺労政会館 第一会議室（JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩5分）

申 込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（11/14締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

参加費
無料詳細資料の
同封あり
☒ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第64回例会

☒ 申込不要

テーマ：『人生100年時代のフレイル・サルコペニア対策』

開催日：平成30年12月1日（土）15:30～18:50

場 所：国分寺市立いずみホール（JR「西国分寺駅」下車 徒歩2分）

参加費：当法人会員 無料 / 一般 1,500円

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

参加費
無料詳細資料の
同封あり

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



ご存知ですか？10月8日は「糖をはかる日」です。SMBG提言されてから40年、その保険適応から30年という節目の2016年に糖尿病治療研究会（代表幹事 森豊先生）が啓蒙活動の一環として決めました。まだまだ認知不足のようですが、世界糖尿病デーと同様に「10月8日は、糖をはかる日」が広まって、世間の糖尿病への意識がより高まると良いですね。
（広報委員 杉山 徹）